

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
104-122	小学校	算数科	算数	5
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
2・東書	算数・512 算数・513	新編 新しい算数 5上 考えたことがつながるね！ 新編 新しい算数 5下 考えたことがつながるね！		

1

編修の基本方針

じっくり考え、学びを楽しみ、しっかり身につける

次世代を担う子どもたちには、予測困難な社会の中でさまざまな未知なる課題に向き合い、他者と協働しながら解決し未来を切り拓く力が不可欠です。

「新編 新しい算数」は、教育基本法の目的及び理念を踏まえ、幅広い知識と教養を身につけ、創造性を培い、筋道立てて考え、自立的、協働的に課題を解決する力を養うことができるように、次のような基本方針を特色として編修しました。



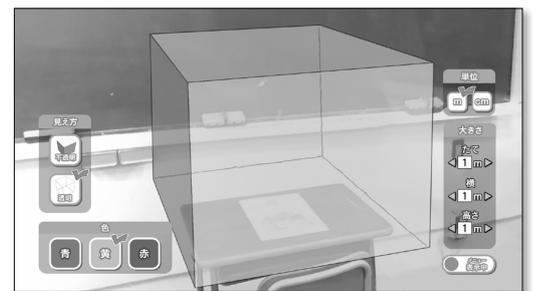
特色 | ICT のよさも生かした深い学びを実現

(1) 教科書の内容に即した QR コンテンツの質・量の充実

① 動画、シミュレーション、演習などの豊富な QR コンテンツの設定

第5学年では、動画コンテンツとして単元導入前に学習動機を創出するオープニングムービーや、繰り返し確認したい筆算の仕方や合同な三角形のかき方などを設定しました。また、思考を支援するシミュレーション、練習問題デジタル版、量感を養うAR、プログラミングなどのコンテンツを全部で337設定しました。対面授業、オンライン授業、家庭学習など、シーンを選ばず活用することができます。ICT 機器で教科書紙面に掲載した二次元コードを読み取れば、簡単に活用することができます。

本資料の本頁下部にある二次元コードを読み取ると、各巻のQRコンテンツにアクセスすることができます。



▲上 p.26 QR コンテンツ「1mの大きさをイメージしよう」
(端末のカメラに映った映像に、スケールを合わせた1mが出現)

② 個人を尊重し、その能力を伸ばす学びの支援

練習問題等の演習コンテンツには、自動正誤判定や結果の記録機能などをもたせました。個別最適化された学びを支援し、能力を伸ばすことができます。

③ 教師の指導・評価もサポート

例えば、シミュレーションコンテンツ使用時に、スクリーンショット機能を活用して子どもの端末の画像を収集したり共有したりすることにより、一人一人の思考の様相をよりの確に把握し、指導や支援、学習評価に生かすことができます。



(1) 資質・能力を育むための単元設計

「新編 新しい算数」では、同じ数学的な見方・考え方を繰り返し働かせながら資質・能力を高めていくという特性が特に顕著な単元において、単元の前半は吹き出しや補助発問などを丁寧に設定し、中盤から後半にかけてはそれまでに育った資質・能力を駆使していっそう高めることができるように、あえて吹き出しや補助発問等を段階的に減少させる設計としました。
これまでの特長である丁寧さを継承しつつ、紙面のシンプル化もはかりながら資質・能力を高める新設計です。

(2) 「既習を生かして考えること」を促進する吹き出し \ 同じように考えると /

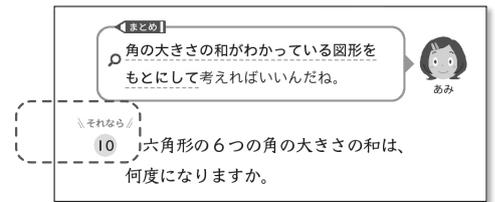
算数の学習を通して、未知の課題に対して、既習を生かして考える力を育むために、既習と同様に考えることを促進しつつ、考え方は書き示してしまわない吹き出し \ 同じように考えると / を随所に新設しました。(上p.10、21、下p.4、30、52など)

(3) 「学習したことを基に発展的、創造的に考えること」を促進する \ それなら /

算数の学習を通して、既習を発展させ新たな課題を見出し解決しようとする態度や力を育みたいと考えます。そこで、「新編 新しい算数」では、新たに次の2点に取り組みました。

① まとめの後の補助発問 \ それなら /

理解深化や、問題解決の際に働かせた数学的な見方・考え方の価値の再確認など有機的な学習の振り返りにもつながります。(上p.29、90、下p.4、59など)



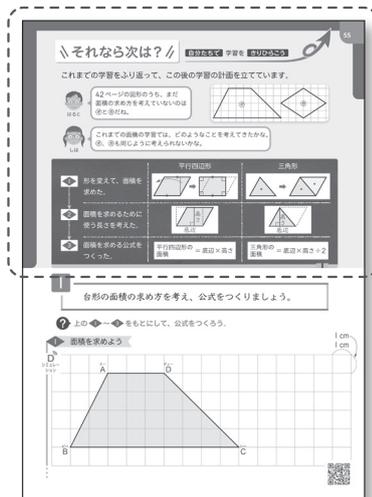
▲上 p.90

② 1 単位時間の最後に位置づく吹き出し \ それなら /

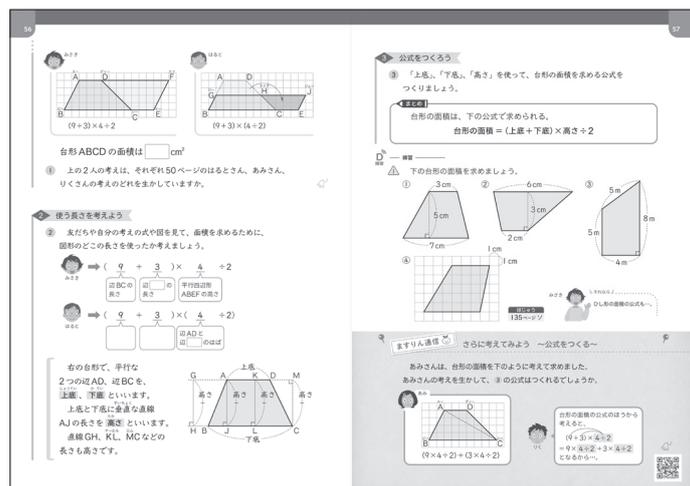
1 単位時間の区切りの目安となる位置に、発展的に考え次時の学習内容を創造する子どもの姿を適宜例示しました。学びの連続性を重視しています。(上p.12、100、下p.28、44など)

(4) 学びを生かし、自分たちで学びを切り拓くことを促進する \ それなら次は? /

これまでの問題解決の過程を振り返り、新たな課題を見出し、解決の計画を立て実行する力を育むページ \ それなら次は? / を新設しました。導入時の振り返りや、課題を見出し計画を立てる場面を丁寧に扱う一方で、問題の解決に関わる記述は最低限に止め、子どもがこれまでに培った力を発揮して解決できるようにしています。教科担任制も見据えて、3、4学年と異なり数時間にわたる内容を \ それなら次は? / として構成し、先生方の高い専門性がより発揮されやすくなることも目指しました。(下p.55~59)



▲下 p.55



▲下 p.56~57

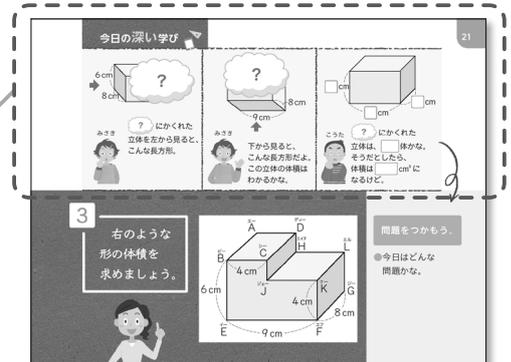
(5) 問題との価値ある出会い、自立と協働、主体性を重視した「今日の深い学び」

今改訂では、問題との出会いの過程および自立的、協働的に問題解決に取り組む態度や力の育成をさらに重視し、次の2点に取り組み、従前より設定している「今日の深い学び」をいっそう進化させました。

① 数学化（問題との出会い）の過程を可視化

👉 問題提示の配慮や工夫について、**学習の連続性を基盤とした創造的なもの**としている先生方の優れた実践を基に可視化しました。創造的に次の課題を見出す力の育成も目指しています。

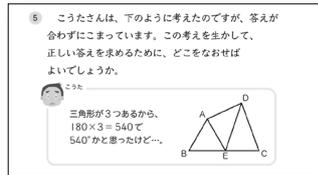
まず、既習のポイントである縦、横、高さに順に着目させ、直方体の体積を決める要素をあらためて確認します。その上で、L字型の問題に出会います。



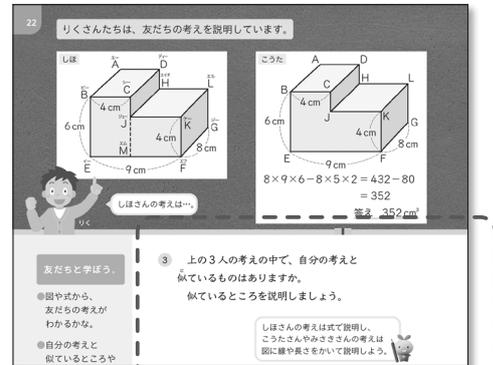
▲上 p.21

② 協働的な学びの過程をいっそう重視

👉 協働的な学びによる練り上げの過程では、**自分の考えと他者の考えの比較・検討に主眼を置きました**。展開の主眼を一問一答による内容理解から発展させ、より深く考えることを重視しています。また、教材によっては、あえて**不完全な考えを取り上げ、それを完全なものにするための考察を促したり、まとめの後に新たな問題を見出しさらに追究したりする構成も採用しました**。

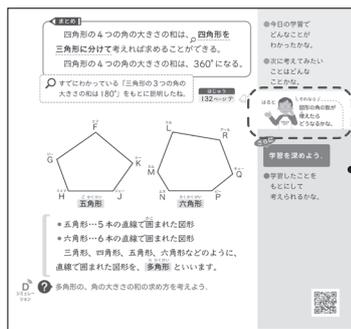


▲上 p.88

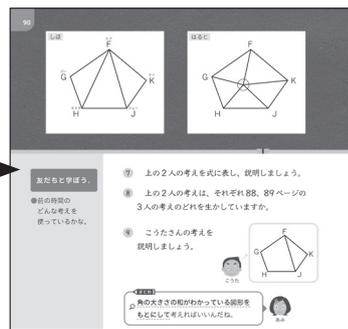


▲上 p.22

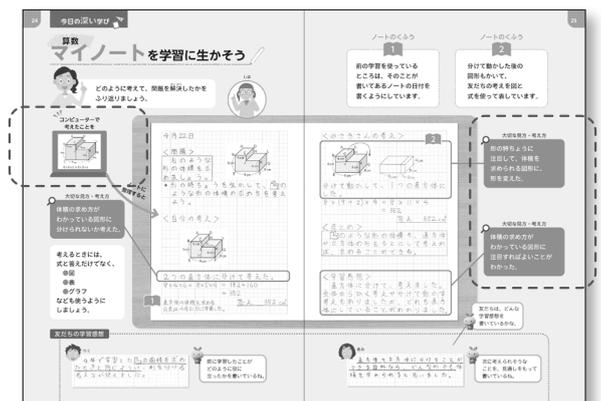
協働的な学びの過程における補助発問は、「自分の考えと似ている考えを見出し、図や式などを用いて説明する」といった、内容理解と深い考察の両方を促進する内容です。



▲上 p.89~90



なお、ノートづくりやその活用も併せて重視しています。上巻巻頭「学びのとびら」(上 p.6~7)では**ノートづくりの例を、「今日の深い学び」ではノートの活用の仕方の例を示しています**。具体的には、ICT機器を活用して考えた際にも**ノートをその整理の場として活用すべきことや、大切な数学的な見方・考え方の振り返りと自覚を強調しました**。



▲上 p.24~25

(6) 生きて働く知識・技能を身につけるための配慮と工夫

① 理解や定着を支援するためのQRコンテンツを豊富に設定、復習の適切な設定

- ☞ 第5学年では、計算方法の確認動画や、不足しがちな図形単元の追加練習問題等の演習コンテンツを豊富に設定しました。また、混み具合や速さ、割合など理解困難な内容に対しては、紙面の改良はもとより、試行錯誤しながら視覚と操作を伴って教材に向き合い、真に理解するためのコンテンツを設定しました。
- ☞ 自社作成の学力調査をはじめ各種学力調査結果を分析し、特に理解、定着度が低い内容を中心に復習するページ「おぼえているかな？」を設定しました。(上p.39、71、122、下p.63、81)

② 学力調査の結果に基づいた取り扱いの配慮や工夫

- ☞ 学力調査において理解、定着度が不十分な内容は特に丁寧に取り扱いました(下p.46、52 不安定な位置にある図形の底辺と高さの判断に関する記述の強化など)。

特色3 学ぶ意義や楽しさを実感し、主体的に学習に取り組む態度の育成

(1) 学習動機を創出するQRコンテンツ「オープニングムービー」の新設

- ☞ 単元冒頭「単元プロローグ」の内容に関連した学習の動機づけ動画を現実の場面から導入する単元を中心に複数の単元で設定し、学習動機を明確にもつことができるようにしました。

単元の最初の授業や家庭学習において視聴し、解決したい課題を明確にすることで、いっそう主体的に学習に取り組むことができます。



▲下p.26 QRコンテンツ「比べられるかな？」

(2) 算数の身近さ、有用さを感じることができる巻頭コラム「私と算数」の新設

- ☞ 算数の学習内容や算数の学習を通して育つ見方・考え方は、将来の仕事や生活様式に関わらず、すべての人々にとってなくてはならないものです。このことを子どもが説得力をもって理解できるようにするため、世界レベルで活躍している方々が自身と算数の関わりについて語るコラム「私と算数」を新設しました。第5学年では、野球選手の大谷翔平さんと算数との関わりを掲載しています。キャリア教育の教材の1つとしても活用することができます。



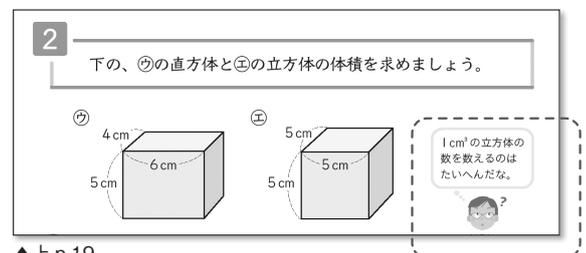
▲上p.2

(3) 算数と生活との関連を重視した場面や活動の設定

- ☞ 各単元冒頭「単元プロローグ」や単元末「いかしてみよう」を中心として、学校や日常生活との関連を重視した場面設定や活動を随所に取り入れ、算数の有用性や学習の楽しさを実感しながら主体的に学習に取り組むことができるようにしました。

(4) 自己調整力の育成を重視

- ☞ 「既習を生かせば解決はできるけど、もっといい方法はないか」と考え自己調整する姿を適宜例示し、よりよく考えようとする態度や力を身につけることができるようにしました。



▲上p.19

	図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
巻頭	学びのとびら	<ul style="list-style-type: none"> ● 自ら考え表現することを促し、自主および自律の精神を育てるとともに、創造性を培えるようにしました。また、他者の考えを解釈したり互いに考えを検討したりする学習活動を促し、個人の価値を尊重したり道徳心を培ったりできるようにしました（各単元も同様）。（第1号、第2号） ● 授業の規律として、自立的に学ぶ段階、他者との協働で学ぶ段階、および各学習段階での着眼点等を例示することにより、公共の精神に基づき主体的に社会の形成に参画する態度を養うことができるようにしました。（第3号） 	<ul style="list-style-type: none"> ● 上4～7 ● 上4～7
各単元	各時の問題や学習活動	<ul style="list-style-type: none"> ● 単元プロローグでは児童の日常生活を中心に多方面から素材を収集し、学びに向かう意欲を高め幅広い知識と教養を身に付けられるようにしました。（第1号） ● 動植物や環境、安全への関心を高める問題場面を設けて生命や環境を意識できるようにし、自他の生命を尊重する心が育つようにしました。（第4号） ● 男女の区別なく考えの妥当性を考察する場面や他者と協働して行う活動などを数多く取り上げ、公平、公正な立場で他者と接する態度が身に付くようにしました。（第3号） ● 数学的な絵を描く画家の作品に内在する規則性や偉大な数学者を紹介し、児童が学習で得た知識に関連づけながら、国を問わない普遍的な算数・数学のよさや日本古来の伝統に気づけるようにしました。（第5号） ● 郷土に関心がもてるように、国内の世界遺産を学習素材として用いるようにしました。（第5号） 	<ul style="list-style-type: none"> ● 上8、32、72、 下18、26、32～33、 64、82 ほか ● 上47、 下27、31、36～39、74～75、 122～123 ほか ● 上4～5、21～23、27、 87～90、 下49、55、82、94～95 ほか ● 下105、131 ● 下74
巻末	プログラミング ほじゅうのもんだい おもしろもんだい さく引 など	<ul style="list-style-type: none"> ● プログラミングについて、実態に応じて複数のアプリケーションで取り組めるよう QR コンテンツを新設したり、個の学習意欲やつまずきなどに応じて自主的に取り組む際に用いる教材をふんだんに用意したりして、個人の価値を尊重しながら能力を伸ばせるようにしました。（第2号） 	<ul style="list-style-type: none"> ● 上124～143、表3、 下130～143、表3

上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

(1) すべての子どもが安心して学力を育むための配慮

① 特別支援教育への配慮

☞ すべての文章において文節改行（読みやすい位置での改行）を徹底したり、問題やまとめなど重要事項を枠で囲んだりしました。また、独自に開発した視認性の高いUD教科書体を採用しました。さらに、イラスト、写真、図などを、カラーユニバーサルデザインに取り組むボランティア団体の協力を得て点検しました。

② 多様性への配慮

☞ 性別、服装、人種等のバランスに配慮し、個人の属性や価値を尊重する態度を育むことができるようにしました。

(2) GIGA スクール構想下における学びの充実への対応

☞ 授業（オンライン授業含む）での活用を想定し、教師用指導書には指導者用デジタル教材も収載する予定です。感染症の流行等の不測の事態においても学びを止めないことを重視し、支援します。

☞ 学習者用デジタル教科書を発行する予定です。ICT機器活用のメリットを生かした学びの実現を支援します。

(3) 教師への支援

☞ 指導計画案（単式、複式）、展開案、評価規準、板書例、評価問題、教師用の指導者用デジタル教材等で構成した教師用指導書を発行します。授業の充実と教師の負担軽減の両立を目指します。

編修趣意書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

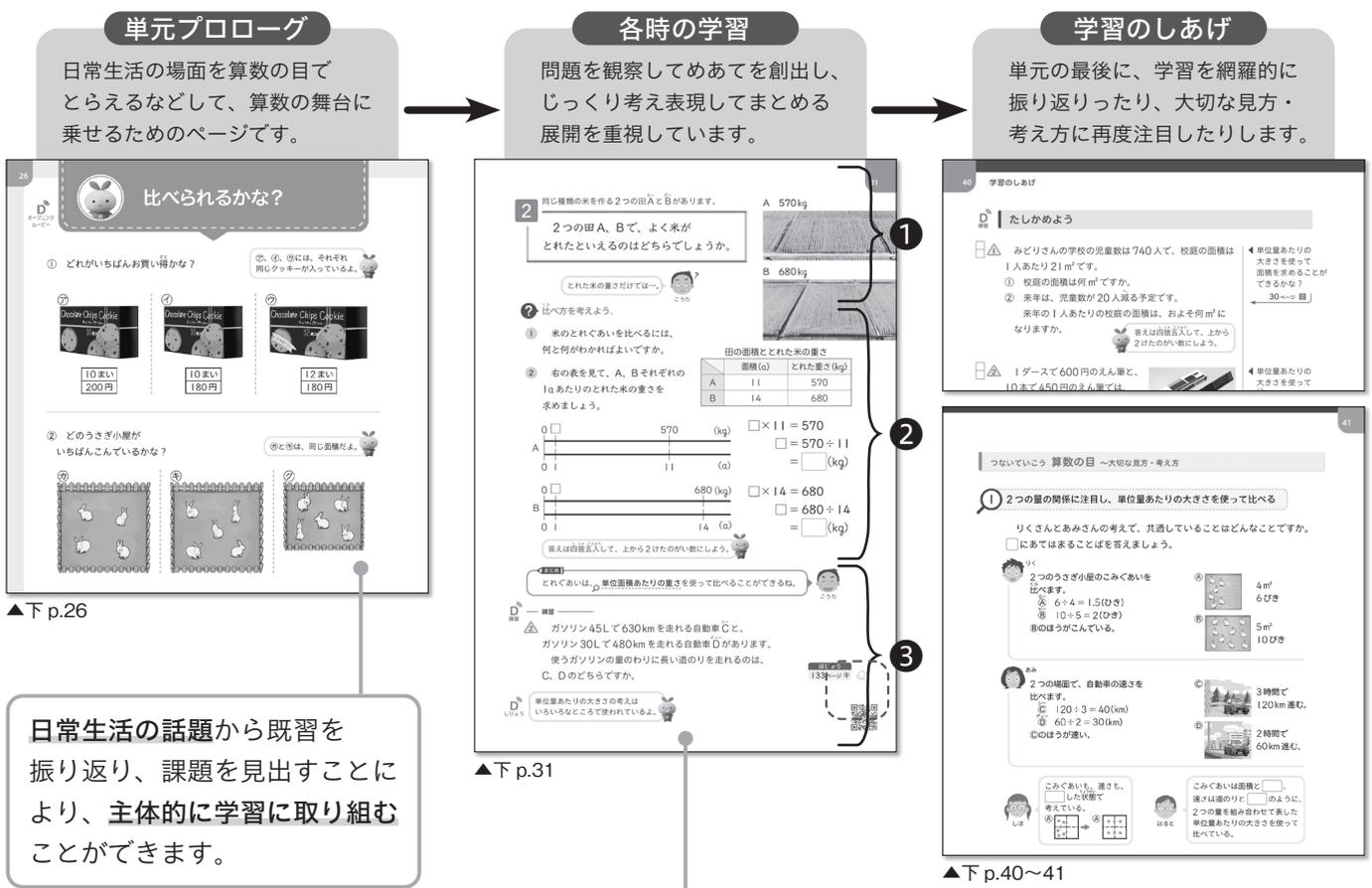
受理番号	学校	教科	種目	学年
104-122	小学校	算数科	算数	5
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
2・東書	算数・512 算数・513	新編 新しい算数 5上 考えたことがつながるね！ 新編 新しい算数 5下 考えたことがつながるね！		

1 編修上特に意を用いた点や特色

「数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成する」。

「新編 新しい算数」は、算数科の目標を達成するための構成を基盤に、随所に取り扱いの工夫を施しました。

数学的活動を基盤とした各単元の基本構成



日常生活の話題から既習を振り返り、課題を見出すことにより、主体的に学習に取り組むことができます。

- 1 ?付きの吹き出し（めあてを生むきっかけ）などを基に問題とじっくり向き合った上でめあて(?)を創出します。
- 2 図や式などを用いて思考・判断・表現する活動を基盤として展開し、資質・能力を育みます。
- 3 まとめでは本時に働かせた数学的な見方・考え方(○)を取り上げます。最後に、原則として練習(△)に取り組み、しっかり定着させます。側注にはベル(🔔)を示し、1単位時間の区切りを例示します。

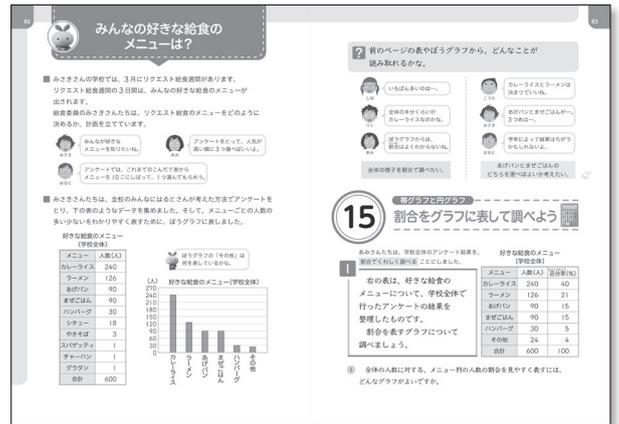
巻末には、補充問題、発展問題などで構成するオプション教材「新しい算数プラス」を設定しています。個別最適化された学習のための教材として活用することができます。

これまでの「新しい算数」の特長である丁寧な数学的活動の可視化を継承しつつ、吹き出しの内容をいっそう精選するなどシンプル化をはかりました。授業、自学を問わず、安心して使うことができる構成です。

(1) 第15単元「帯グラフと円グラフ」～ 問題解決の文脈を重視 / QRコンテンツの活用

① 学習動機を重視

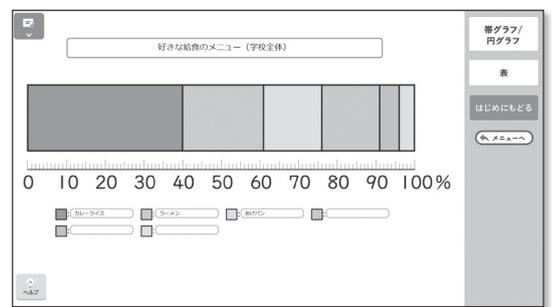
- ☞ 「みんなの好きな給食のメニューの全体の様子を知りたい」「リクエスト給食の3つめのメニューを決めたい」という動機を生み出す場面を設定し、**学習動機を明確に**します。
- ☞ 帯グラフ、円グラフへの表現を急ぎ過ぎず、**じっくりと問題やデータに向き合い観察**することを重視しています。
- これらのことにより、**主体的な学び**を促します。



▲下 p.82~83

② グラフ作成の QR コンテンツを活用

- ☞ 帯グラフや円グラフへの表現は、QRコンテンツを活用して効率的に行うことができます。表を作成してからグラフをかいたり、グラフ内を任意に分割してグラフをかいたりすることができるため、単元を通して活用することができます。グラフ作成の時間を短縮し、**データの分析力や判断力の育成**により多くの時間を使うことができます。なお、教科書紙面上にもグラフをかけるように、紙面にはグラフをかくスペースを用意しています (下 p.86~87)。



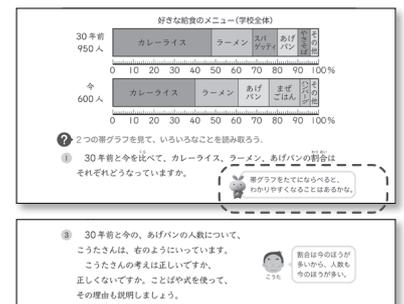
▲下 p.86 QR コンテンツ「帯グラフや円グラフをかこう」

③ PPDAC サイクルの視覚化

- ☞ 低学年より PPDAC サイクルを基盤に単元を構成していますが、第5学年より具体的な文脈に即して視覚化し、それまでの学習を振り返りながら問題解決の過程自体に即ち着目できるようにしました。(下 p.88)

④ より分かりやすく表したり、正しく判断したりする力を育てるための配慮と工夫

- ☞ 帯グラフを縦に並べると割合の経年変化が見やすくなるためよりよく伝わることを理解したり、割合の多少だけで判断できない場面があることを実感し**正しく最適な判断**を行う力を身につけたりすることができるように配慮と工夫を施しました。
- 具体的には、帯グラフを縦に並べたときにわかりやすくなることをますりんの吹き出しをきっかけに考えさせたり、基準量が異なる場合は割合どうしの比較で実数の多少を判断してはならないことを丁寧に扱ったりしました。割合の理解をさらに深めるとともに、統計的な問題解決能力をしっかりと身につけることができます。

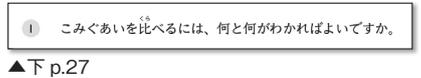


▲下 p.89

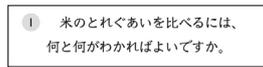
(2) 第12単元「単位量あたりの大きさ」～ 理解の難しさに向き合う

① 単位量あたりの大きさをつくる2量を見出すことを重視

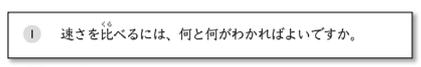
- ☞ 例えば、うさぎ小屋の混み具合であれば面積とうさぎの数、速さであれば道のりと時間、というように、1つの量では比較することができない場合には**単位量あたりの大きさをつくる2量**を見出す必要があります。「新編 新しい算数」では、子どもが**単位量あたりの大きさの意味を理解し、活用する力を育む**ために、一方的に2量を示してしまうことを避け、どのような2量が必要かを考えさせることを単元プロローグや補助発問にて徹底して重視しました。



▲下 p.27



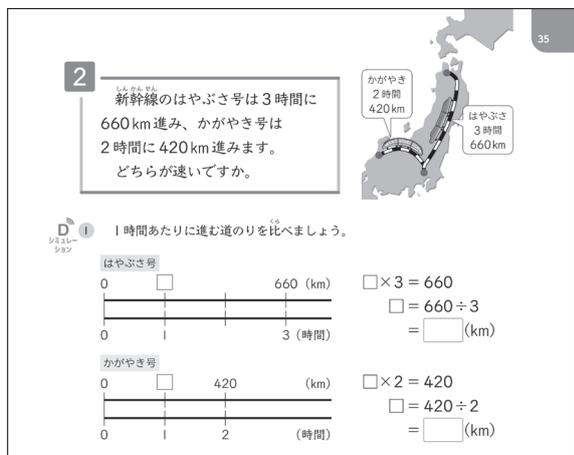
▲下 p.31



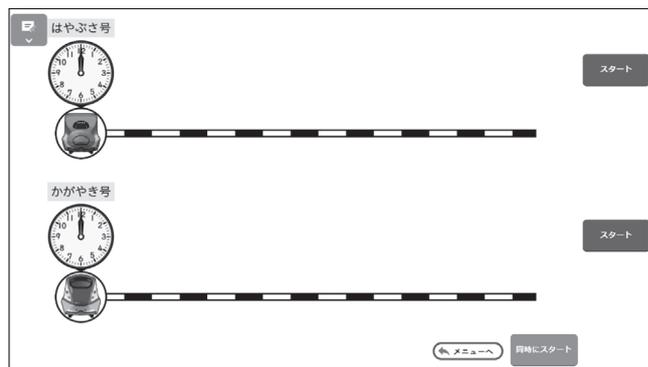
▲下 p.33

② 図的表現の充実と QR コンテンツを活用した理解の促進

教科書では、直感的な絵図や数直線の図を丁寧に扱いました。このことと併せて動的に考察でき、かつ視覚的に量が捉えやすい図を用いた動画を QR コンテンツとして設定し、理解が困難であるからこそ、しっかりと単位量あたりの考えに向き合い、真に理解することを追求しました。



▲下 p.35



▲下 p.35 QR コンテンツ「1時間あたりに進む道のりを比べよう」

(3) 第14単元「割合」～ 理解の難しさに向き合う

① 割合を求めるのに必要な2量を見出すことを重視

例えば、シュートのうまさ进行比较する際、入った数のみで判断することはできません。シュートをした数がわかってこそ比較することができます。

このことの理解が、2量の割合を求め比較する際の第1歩となります。

そこで、「新編 新しい算数」では、子どもが割合の意味を理解し、活用する力を育むために、単元プロローグにおいて、一方的に2量を示してしまうことを避け、比較のために必要な2量は何かを見出すことを重視しました。

また、差による比較の限界を捉えることも丁寧に扱えるよう数値の吟味を重ね、差が同数の数対を扱い、割合による比較に着目しやすくなるようにしました。



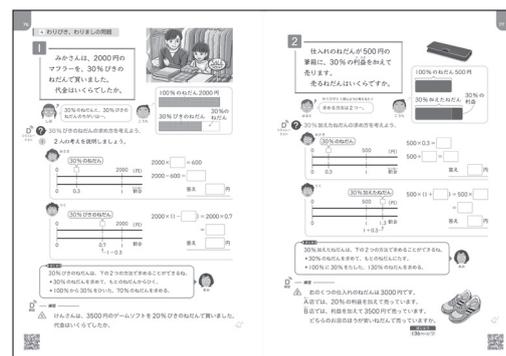
▲上 p.64 ~ 66

② 図的表現の充実と QR コンテンツを活用した理解の促進

導入のシュートの場面では、例えば「シュートをうつペースが遅い人はうまくない」といったイメージをもち「よく成功した」の意味を捉えられないことが考えられます。このような「シュートした回数」、「入った数」

以外のさまざまな属性を除いて考える算数・数学らしい思考方法に着目しやすくするために、単元プロローグの場面に合わせて、あえてシュートを打つペースがちがう様子を見せる動画を QR コンテンツとして設定し、議論、検討することができるようにしました。

割引き、割増しといった子どもにとって難しい内容は、教科書紙面上で図を用いて丁寧に取り扱いました。さらに、数直線の図に表現しながら考えるためのシミュレーションも QR コンテンツとして設定しました。



▲下 p.76 ~ 77

観点別特色一覧

観点	特色	箇所
教育基本法および学習指導要領の遵守	<ul style="list-style-type: none"> ● 数学的な判断に基づき他者の考えを解釈、検討することを重視し、自他の価値を尊重してその能力を伸ばし、創造性を培えるようにしました。 ● 資質・能力の育成のための優れた研究や実践の成果をもとに、数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を基盤とした学習展開を重視しました。 	全体
ICTの活用への取り組み	<p>< QR コンテンツの質・量の充実 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 学習者用の QR コンテンツ数を充実させました (337 コンテンツ)。授業中の自力解決や集団解決、習熟のための演習、家庭学習など、シーンを選ばず活用することができます。 個別最適化された学びの実現にも有用です。例えば、以下のような種類のコンテンツがあります。 <ul style="list-style-type: none"> ・単元の動機づけ、図形のかき方、計算の仕方など (動画) … 37 コンテンツ ・振り返りや各時の演習、追加問題 … 219 コンテンツ ・グラフの作成、図形操作、体積 AR、理解支援など (シミュレーション) … 54 コンテンツ ・プログラミング … 4 コンテンツ ・その他 (端末の使い方、SDGs 関連内容、感染症対策、資料) … 23 コンテンツ ● QR コンテンツを設定している箇所には D のマークを付して強調し、一目で分かるようにしています。そして、各ページ下側位置に掲載した二次元コードを読み取るだけで、簡単にアクセスすることができます。また、いずれのコンテンツも 5 年生の子どもが直感的に操作できる仕様です。 <p>< 学習者用デジタル教科書の発行 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 学習者用デジタル教科書を発行予定です。 ワンタッチで QR コンテンツを起動できたり、教科書紙面への書き込みや保存ができたりする、学習者の活用に適した仕様となる予定です。 ● 色反転や自動読み上げ、総ルビなどの専用ビューアの機能を使用することで、特別支援教育の充実を支援します。 <p>*学習者用デジタル教科書の仕様は、予告なく変更することがあります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 上8、16、21、26、37、46、124、下2、16、18、26、27、32、35、36、42、43、49、55、58、64、72、86、87、93、102、113、117 ほか
教師の指導、評価支援 (教師用指導書)	<ul style="list-style-type: none"> ● 指導計画 (単式、複式など)、評価規準例、展開例、解答例、板書例などで構成した教師用指導書を発行する予定です。 ● 通常の授業をはじめ、オンライン授業でも活用可能な指導者用デジタル教材等も付属予定です。教師の働き方改革と指導の充実の両立を目指します。 	
学びの系統性・連続性	<ul style="list-style-type: none"> ● 「単元プロローグ」における既習を振り返り学習課題をつくる活動、問題解決の過程における既習とのつながりへの着目を促す吹き出しや補助発問、後の学習の素地づくりとなる活動などを積極的に取り入れ、学びの系統性や連続性を意識できるようにしました。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 上8、10、21、40、64、79、97、下30、42、49、82~83 ほか
知識や技能の習熟・定着	<ul style="list-style-type: none"> ● 各時の展開において、数学的な見方・考え方を働かせ既習と当該の学習をつなぐための補助発問や吹き出しを適切に設定し、数学的活動を軸とした学習展開を徹底して、知識や技能の断片的な詰め込みにはならないことを重視しました。 ● 復習ページ「おぼえているかな？」を適宜設定しました。自社実施の学力調査をはじめとする各種学力調査の分析結果を基につまづきが多い問題を厳選し、習熟度を維持、向上させることができるようにしました。また、次単元のレディネスとなる問題には (6+4) を付し、つまづきへの事前対応に活用できるようにしました。 ● 巻末オプション教材「新しい算数プラス」では、各単元の練習問題と対応した補充問題をふんだんに用意しました。さらに、個別最適化された学びの支援として難易度別に 2 種類の問題を用意し、個に応じて選択的に取り扱うことができるようにしました。「おぼえているかな？」とあわせて、朝学習や家庭学習用教材として活用することもできます。 ● ICT 活用の一環として、知識や技能の習熟・定着のための QR コンテンツをふんだんに設定し、即時的な正誤判定、結果の記録、やり直し、全答時のアクションなどを取り入れ、子どもが楽しく主体的に練習し、力をつけることができるようにしました。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 上17~18、21~23、41~44、53~56、下2~14 ほか ● 上39、71、122、下63、81 ● 上124~143、下130~143 ● 上46、48、58、下11、12、16、25、38、40、61、74、108 ほか
思考力・判断力・表現力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ● 思考し、表現する学習活動を適切に取り入れられました。特に、思考を図や式に表すといった学習活動を本文や特設ページ「考える力をのぼそう」にて重視しました。 ● 既習と同じように考えることを促進する吹き出し「同じように考えると」を設定し、既習を生かして考えようとする態度や力を育むことができました。 ● 問題を解決した後、さらに発展的に考え理解を深めたり、見方・考え方の価値を再確認したりするための補助発問「それなら」を適宜設定し、より深く学ぶことができるようにしました。 ● それまでの問題解決の過程を振り返り、新たな課題を見出し解決の計画を立てて実行するページ「それなら次は？」を新設し、自立的に学びを切り拓こうとする態度や力を育むことができるようにしました。教科担任制も見据えた、教師の専門性を発揮しやすい取り組みです。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 上4~5、47、59、下94、120 ほか ● 上10、21、下4、30、52 ほか ● 上29、90、下4、59 ほか ● 下55~59

思考力・判断力・表現力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ● ICT 活用への取り組みの一環として、問題解決の際に思考や表現を支援する QR コンテンツをふんだんに用意しました。書いたり消したりすることが簡単なため、よりよい解決を追究しようとする態度や力の育成にもつながります。 ● ノートづくりを重視し、巻頭「学びのとびら」ではノートづくりの基本的な事項の例を取り扱いました。単元内の「今日の深い学び」では、ノートを用いて本時で働かせた数学的な見方・考え方を主眼に学びを省察することや、ICT 機器を活用した際には、思考の整理の場としてノートを活用することを例示しました。 ● 特に、同じ数学的な見方・考え方を繰り返し働かせる単元の中後半の吹き出しは、答えを書き示してしまわないようにして、子どもが考えることを重視しました。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 上 16、26、47、下 27、34、55、67、86、117 ほか ● 上 6～7、24～25、90QR コンテンツ、下 95QR コンテンツ ● 下 26～31、42～59 ほか
主体的に学びに取り組む態度の育成	<ul style="list-style-type: none"> ● よりよく問題解決しようとする姿や、発展的に考えようとする姿を例示しました。 ● 日常生活と学習場面を関連づけ、学習することの意義や学習内容の有用性を実感することができるようにしました。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 上 19、89 ほか ● 上 72、105、120～121、下 78 ほか
組織・配列・分量	<ul style="list-style-type: none"> ● スパイラルに学習すること、中学校以降の学習を見据えて内容を相互に関連づけることとのバランスに配慮し、関連が強い単元を適度に隣接させるなど、単元の配列を工夫しました。 	全体
他教科等との関連	<ul style="list-style-type: none"> ● 他教科との関連を  を付して明示しました。 ● 属人的な判断ではなく、論理に基づいて判断することを積み重ねることで、自他の価値を尊重する態度を養うなど道徳教育との関連に配慮しました。 ● 体力、地球温暖化といった教科横断的な話題をテーマとして統計的な問題解決能力を育成することをねらいとした「算数で読みとこう」を設定しました。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 上 18、下 88 ● 全体 ● 上 120～121、下 122～123
特別支援教育への対応	<ul style="list-style-type: none"> ● カラーユニバーサルデザイン、余白を生かした紙面デザインを徹底しました。 ● 自社開発の UD 教科書体を採用し、文字の視認性をよくしました。 ● 軽量な紙を使用し軽量化に努め、また、堅牢で開きやすい PUR あじろ綴じとしました。 ● 拡大教科書を、文字のポイント別に複数種類発行予定です。 	全体

2 対照表

配当時数計：160（予備時数 15）

配当月	配当時数	単元名	学習指導要領・内容名	該当箇所 (上巻)
4	1	○学びのとびら	第 4 学年の内容	4～7
	5	①整数と小数のしくみをまとめよう	A(2) ア(ア)イ(ア)	8～15
	8	②直方体や立方体のかさの比べ方と表し方を考えよう	B(4) ア(ア)(イ)イ(ア)	16～31
5	4	③変わり方を調べよう(1)	C(1) ア(ア)イ(ア)	32～39
	9	④かけ算の世界を広げよう	A(3) ア(ア)(イ)(ウ)イ(ア)(6)ア(ア)	40～51
6	9	⑤わり算の世界を広げよう	A(3) ア(ア)(イ)イ(ア)	52～63
	5	○小数の倍	A(3) ア(ア)(イ)イ(ア)	64～69
7	2	○どんな計算になるのかな？	A(3)	70
	8	⑥形も大きさも同じ図形を調べよう	B(1) ア(ア)イ(ア)	72～83
9	6	⑦図形の角を調べよう	B(1) ア(イ)イ(ア)内容の取扱い(2)	84～93
	12	⑧整数の性質を調べよう	A(1) ア(ア)(イ)イ(ア)内容の取扱い(1)	94～107
10	6	⑨分数と小数、整数の関係を調べよう	A(4) ア(ア)(イ)イ(イ)	108～117
	2	○考える力をのぼそう	C(1)イ(ア)	118～119
	2	○算数で読みとこう	D(1)ア(イ)イ(ア)	120～121
(下巻)				
11	10	⑩分数のたし算、ひき算を広げよう	A(4) ア(ウ)(I)イ(ア)(5)ア(ア)イ(イ)	2～17
	6	⑪ならした大きさを考えよう	D(2)ア(ア)イ(ア)	18～25
12	10	⑫比べ方を考えよう(1)	C(2)ア(ア)イ(ア)	26～41
	11	⑬面積の求め方を考えよう	B(3)ア(ア)イ(ア)	42～62
1	10	⑭比べ方を考えよう(2)	C(3)ア(ア)(イ)イ(ア)内容の取扱い(4)	64～80
2	8	⑮割合をグラフに表して調べよう	D(1)ア(ア)(イ)イ(ア)内容の取扱い(5)	82～92
	1	⑯変わり方を調べよう(2)	A(6)ア(ア)イ(イ)	93～95
	9	⑰多角形と円をくわしく調べよう	B(1)ア(ウ)(I)イ(ア)内容の取扱い(3)	96～109
3	7	⑱立体をくわしく調べよう	B(2)ア(ア)イ(ア)	110～119
	2	○考える力をのぼそう	C(3)ア(ア)(イ)イ(ア)	120～121
	2	○算数で読みとこう	D(1)ア(ア)(イ)イ(ア)	122～123
	5	○5年のふくしゅう	A～D	124～128

編 修 趣 意 書

(発展的な学習内容の記述)

受理番号	学校	教科	種目	学年
104-122	小学校	算数科	算数	5
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
2・東書	算数・512 算数・513	新編 新しい算数 5上 考えたことがつながるね！ 新編 新しい算数 5下 考えたことがつながるね！		

ページ	記 述	類型	関連する学習指導要領の内容や 内容の取扱いに示す事項	ページ数
上 138	⑦図形の角を調べよう 	1	第5学年2内容B図形(1) ア(ア)「図形の形や大きさが決まる要素について理解するとともに、図形の合同について理解すること。」 ア(イ)「三角形や四角形など多角形についての簡単な性質を理解すること。」 イ(ア)「図形を構成する要素及び図形間の関係に着目し、構成の仕方を考察したり、図形の性質を見だし、その性質を筋道を立てて考え説明したりすること。」	1
下 69	ますりん通信 0.5の割合で入るシュートの うまさ	1	第5学年2内容C変化と関係(1) イ(ア)「伴って変わる二つの数量を見いだし、それらの関係に着目し、表や式を用いて変化や対応の特徴を考察すること。」	1
合計				2

(「類型」の分類について)

- 1 … 学習指導要領上、隣接した後の学年等の学習内容（隣接した学年等以外の学習内容であっても、当該学年等の学習内容と直接的な系統性があるものを含む）とされている内容
- 2 … 学習指導要領上、どの学年等でも扱うこととされていない内容